

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 流星写真儀対物グレーティング発見

この対物グレーティングは天文情報センターの小池氏が所蔵していた。由来がはっきりしない。おそらく流星写真儀の対物グレーティングであろうとは渡部天文情報センター長の推測である。これを使われたのは天文情報センターで質問電話を担当されていた長沢工氏であろうと思われる。氏は東京大学地震研究所所属であったが天文の出身で、長らく流星の観測をされていた。

写真1が発見された対物グレーティングである。写真2、写真3のようにグレーティングでスペクトルができる。この記事は、長沢氏にお尋ねしてから書くべきかもしれないが速報として流します。



写真 1



写真 2



写真 3

今や、流星写真儀の存在は、堂平観測所に流星写真儀があったという記事を見るくらいで、その詳細を知る人はいない。

中桐の知っていることは、流星写真儀の建物が三鷹キャンパスのグラウンドのバックネットの西側辺りにあった。中桐が見たことのある建物はスライディンググループになっていて、もはや廃屋同然で、ただ南北のレールがスライディンググループであったろうと思わせるだけのものであり、これが完全になくなる前に、その辺りに野犬を捕獲する罠が仕掛けられた事を覚えている。その頃は東京天文台の中に10匹近い野犬がおり、夜などその野犬に囲まれ恐怖を感じたものである。

その後、流星写真儀は堂平観測所に移され、堂平山山頂の三角点の南、50cmシュミットの南側にあったと記憶している。この当たりの事については、長沢工氏にお尋ねして、続報を書きたいと思う。写真4の左端の建物が堂平観測所の流星写真儀室である。



写真 4